

1. 背景と目的

- 地下自転車等駐車場及び地下通路の維持管理については、今後損傷が進行してから修繕する場合、工事規模や期間が大きくなり、継続的な施設利用への影響が懸念される。
- 「対症療法型維持管理」から損傷が大きくなる前に修繕を行う「予防保全型維持管理」へ転換する。
- 施設の安全確保やコストの縮減、予算の平準化を図る。

2. 計画期間

令和5年度～令和9年度（5カ年）

3. 対象施設

対象施設は、本市が管理する地下自転車等駐車場（6施設）及び地下通路（7施設）とする。

【本計画で対象となる地下施設の区分】

- 道路区域内に設置されている地下構造形式の自転車等駐車場
- 鉄道駅へ接続する地下通路及び青葉通地下道

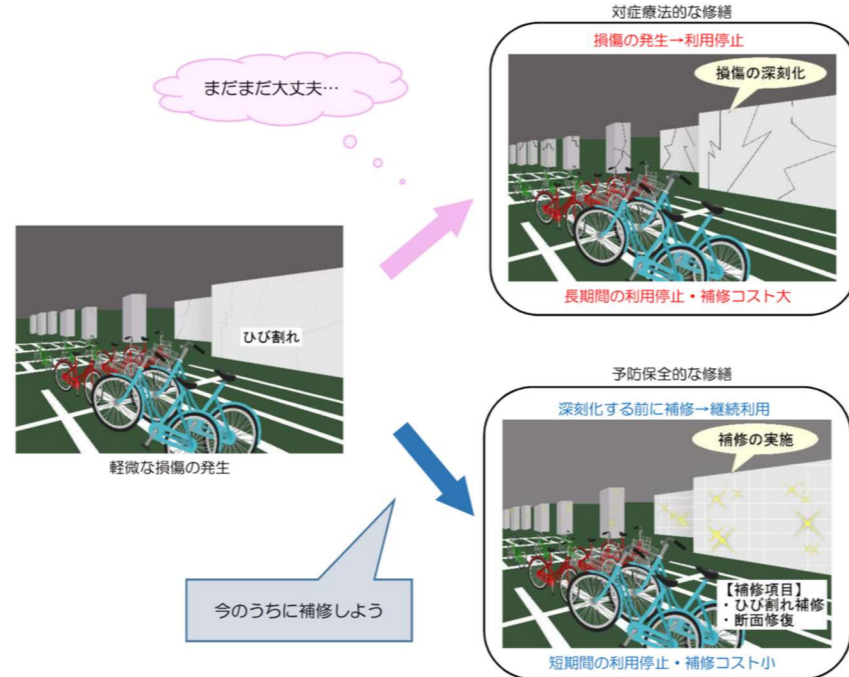


仙台駅東口地下自転車等駐車場（地下自転車等駐車場）



仙台駅東西地下自由通路（地下通路）

4. 長寿命化に向けた基本方針



《点検の基本方針》

(1) 定期点検

5年に1度の定期点検を実施し、施設の健全度を把握する。

【点検結果】

本市が管理する地下自転車駐車場および地下通路の健全性は以下の通りである。

健全度 I（健全）	2施設
II（予防保全段階）	11施設
III（早期措置段階）	0施設
IV（緊急措置段階）	0施設

各施設で確認されている主な損傷は、以下に示すようなコンクリートのひび割れや舗装の剥離、タイルのひび割れ等である。



地下自転車駐車場点検状況



側壁のひび割れ・遊離石灰



舗装の剥離



階段部のひび割れ

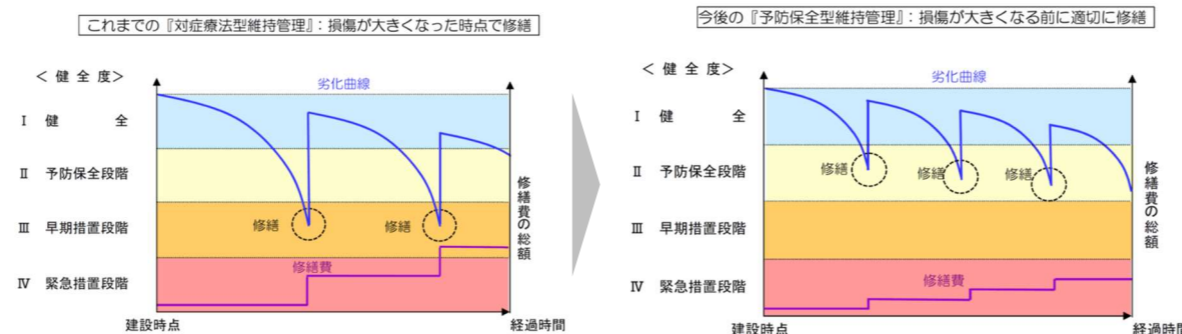


タイルのひび割れ

《修繕の基本方針》

(1) 予防保全による修繕時期の考え方

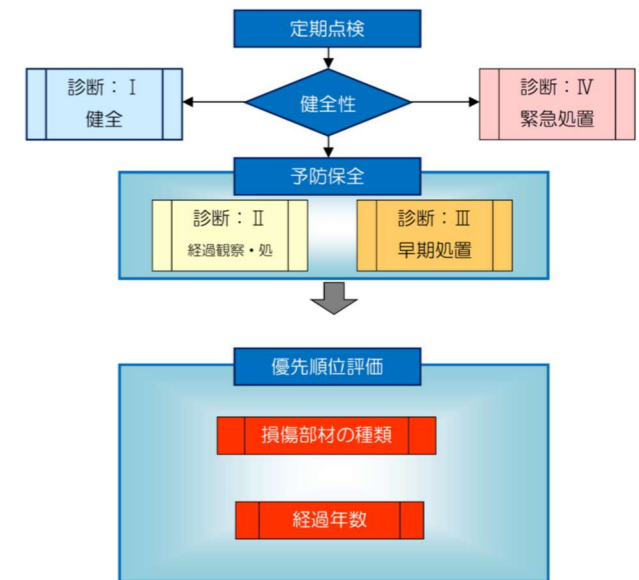
『予防保全型維持管理』では、施設利用の安全確保および修繕費用の縮減を図るため、損傷が深刻化する前の健全度評価“II”の期間内に修繕を実施する。



(2) 優先順位の考え方

点検結果に基づく施設の健全度によるほか、損傷部材の種類や経過年数等を総合的に判断して優先順位を決定する。

【対策優先順位の評価フロー】



【損傷部材の種類】

- 主な損傷が発生している部材のうち、施設利用者（第三者）の安全に影響を及ぼす恐れのある損傷の重要度から評価する。
- 重要度：本体（頂版＞側壁＞底版）＞その他（舗装、階段、排水管等）

5. 新技術の活用について

(1) 新技術活用方針

定期点検や修繕において、新技術の活用を含めた比較検討を行い、事業の効率化やコスト縮減を図る。

(2) コスト縮減目標

管理する地下自転車等駐車場及び地下通路のうち、6施設で新技術等の活用を行い、令和9年度までに約70万円のコスト縮減を目指す。

6. 予防保全の取組みによる効果

① 健全度の向上

定期点検の実施による現状把握により、適切な修繕工事を計画的に実施できるため、施設の健全性が向上

② コスト縮減

予防保全型維持管理への転換により維持管理コスト縮減を実現

③ 予算の平準化

劣化予測による対策時期の分散により、計画的な修繕が可能となり、予算の平準化を実現